ゼミ募集システムの開発

宮崎　誠[†1]　常盤　祐司[†2]　田村 晶子[†3]　宮﨑 憲治[†4]

†1 法政大学　情報メディア教育研究センター（yuji.tokiwa.dc@hosei.ac.jp）
†2 法政大学　情報メディア教育研究センター（makoto.miyazaki.dc@hosei.ac.jp）
†3 法政大学　経済学部（atamura@hosei.ac.jp）
†4 法政大学　経済学部（miya_ken@hosei.ac.jp）

概要：法政大学経済学部は，1 学年の学生数が 700～900 名程度であり，例年，ゼミの募集や応募は，紙ベースで行なっていため，事務作業を含めて，改善が求められていた．そこで，ゼミの募集，応募に特化した Web システムを開発し，約 70 のゼミにて学生の選考を行った．本システムは，ユーザやゼミ情報に加え，選考のプロセスに応じた，募集情報の一斉公開，応募の締切など設定可能であり，公平な選考の実施に配慮している．

1　はじめに

大学において教員が一方的に講義形式とは対照的に，専門性の高い授業を少人数で行う教育法にゼミナール（Seminar, 以下，ゼミと表記）がある．一般的には，各教員の指導のもと，学年の異なる学生が一緒になりゼミが開講されており，学生にとってゼミは，専門性の修得する学びの場だけでなく，ゼミ合宿等の各種イベントでの交流や就職活動にあたって情報交換するなど，大学生活を充実させるのに重要な役割を担っている．それ故に, 学生の受講するゼミは, 当然のことながら, 学生自身が興味，関心を持っているテーマ，サークル等の先輩が所属している，または希望する企業に先輩が就職している[i]など，様々な判断材料のもと，できる限り学生の希望が反映されたものになることが望ましい．ゼミ募集における学生の選択行動を分析し，マッチング問題をメカニズム・デザインで解決できる可能性を示唆している[1].

しかしながら，現実的な問題として，学生の希望だけを優先してしまうと，人気のあるゼミに学生が集中してしまい，結果，教員の指導が行き届かない，反対に希望する学生が極端に少ないゼミでは，ゼミ運営自体が難しくなるといった問題が生じてしまう. そのため, 法政大学経済学部では, 学生の所属するゼミを決定するにあたり，それぞれのゼミに定員を設け，面接や試験，レポートによる選考を行なっており，第一次募集から第三次募集まで実施することで，もし，第一次募集で希望が叶わなかった場合でも，第二次募集，第三次募集を実施し，学生が希望するゼミを受講し，所属できるような配慮をしている．

ゼミの選考プロセスでは，例年，募集票や応募票といった，紙ベースで実施されてきた．紙ベースでの選考では，学生および開講するゼミの数が多くなればなるほど，膨大な事務作業が発生することになる．そこで，ゼミの募集，応募に特化し選考を実施するためのゼミ募集システムを開発した．

本稿では，開発したゼミ募集システムの概要および本システムによるゼミ選考プロセスについて述べる．

2　ゼミ選考プロセスの概要

2.1 従来の紙ベースによる選考プロセス

法政大学経済学部 1 学年の学生数は, 700～900 名程度であり, 約 70 のゼミを開講するにあたって, 例年，紙ベースによる選考を行なっていた．選考を始めるにあたり，事務が，各ゼミで作成したゼミ紹介シートをもとにゼミ紹介冊子を作成し，配布を行うとともに選考についての事前説明会を実施している．

---

[i] 就職に関しては，実際，ほとんどの企業でエントリーシート等に所属ゼミや研究室，研究，専攻テーマや自己 PR などを記

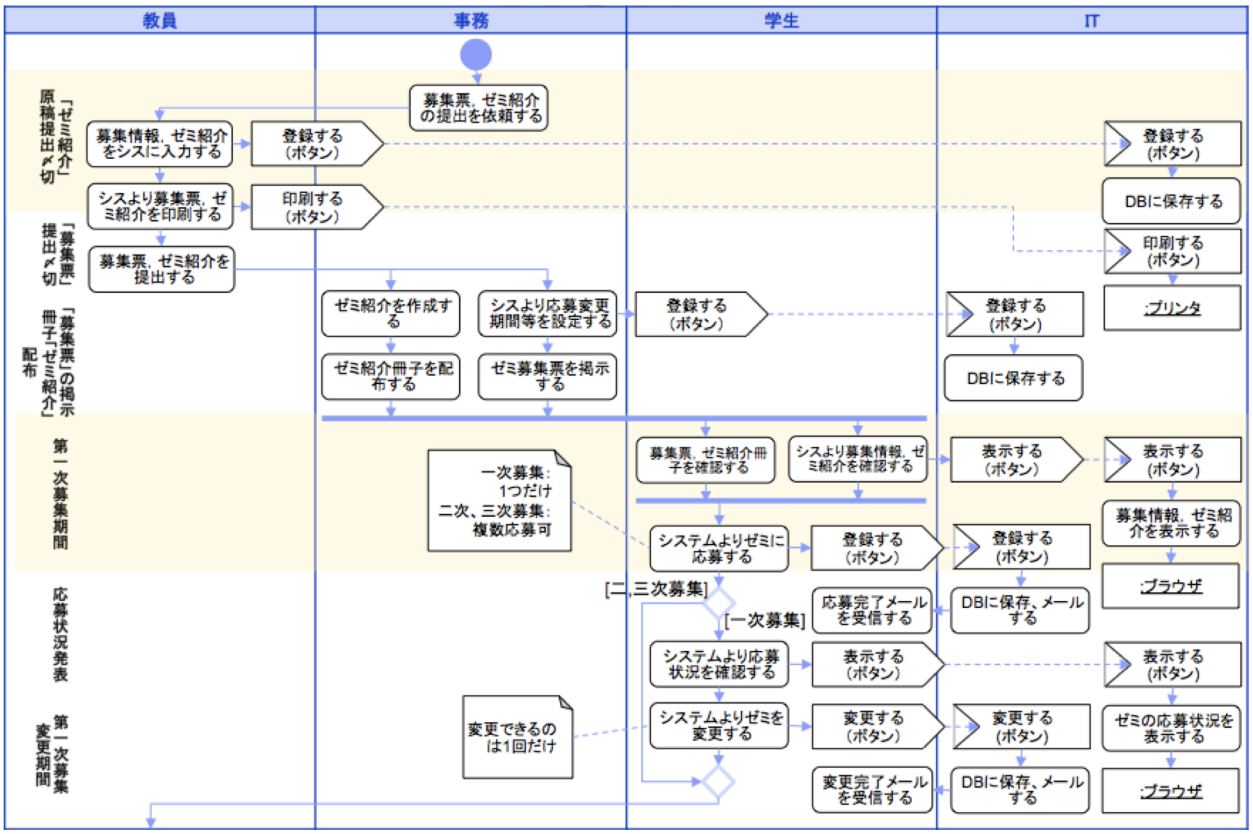

図 1　ゼミ募集システムによる選考プロセス（募集開始～応募情報登録）

[第一次募集]

(1) 教員は，各学年の定員や選考方法などを記載した募集票を事務に提出する．
(2) 事務は，ゼミの募集票を掲示板に掲示する．
(3) 学生は，応募票[ii]に希望するゼミや個人情報，自己 PR 等を記載し，事務に提出する．なお応募できるのは，一つのゼミのみである
(4) 事務は，応募票をもとにゼミ毎の整理，枚数集計，ゼミ毎の応募者のリスト作成等を行い，応募先のゼミ担当教員へ応募票を受け渡す．
(5) 各ゼミは，面接や試験，レポート等で，応募した学生の選考を実施する．
(6) 教員は，合格者一覧シートを事務に提出する．
(7) 事務は，合格者一覧シートを掲示板に掲示する．

第二次募集以降も，基本的には，第一次募集と同じプロセスで実施するが，第二次選考では，複数のゼミに同時に応募することができるとしており，決められた期間内にゼミが決定するような工夫をしている．

例年，以上のような選考プロセスを実施してきたものの，いくつかの課題が挙がっている．紙ベースで選考を行うことによる課題を以下に述べる．

事務処理業務の煩雑さ

選考では，前述した通り，学部事務が窓口となり，教員から提出されるゼミ紹介シート，募集票，合格者一覧シート，および学生から提出される応募票がとりまとめられ，選考が実施されており，対応する教員数，学生数を考えると，紙のやりとりだけでも煩雑になっていた．

手書き応募票の不明瞭さ

応募票が手書きのため，特に，教員からも選考の過程で学生に連絡をとる必要がある場合，メールアドレスが不明瞭な場合，困るという指摘が聞かれるようになっていた．

また，選考の仕組み自体の問題も指摘されていた．以下に述べる．

---

ii 応募票は，記載する項目に，教員用，事務控え，本人控えに分かれている．

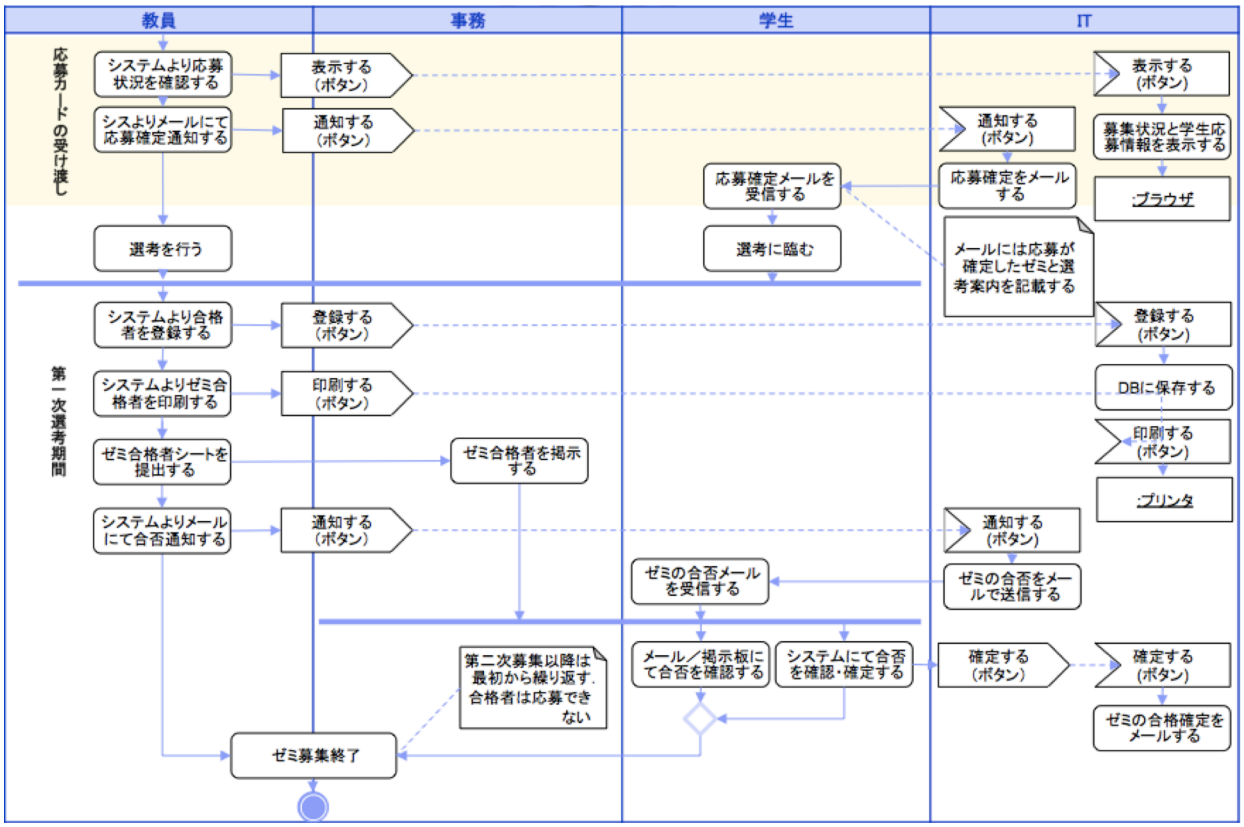

図 2　ゼミ募集システムによる選考プロセス（応募状況の確認～ゼミ募集終了）

特定ゼミへの応募の偏り

応募票を集計してみると極端に特定のゼミに応募が集中することが当然起こる．ある学生が応募したゼミが極端に厳しい倍率で，変更したいと考えたとしても，第一次選考では，変更ができなかった．

合格学生の未受講の問題

第二次募集では，同時に複数のゼミに応募できるため，複数のゼミに合格する学生がでてくる．そのため，教員が第二次募集にて，学生を合格としたとしても，実際にその教員のゼミを受講するかどうかは，受講が登録されるまで分からない，

2.2 ゼミ募集システムによる選考プロセス

紙ベースで実施してきたこれまでの選考プロセスを基本的な選考プロセスとして，ゼミ募集システム上に実現している．ゼミ募集システムによる選考プロセスを図 1，図 2 に示す．今回，行う選考では，ゼミ募集システムへ初めて移行することもあり，募集票，ゼミ紹介，ゼミ合格者シートについては，システムから印刷して教員が事務に提出するようにした．例年の選考プロセスの問題点を踏まえた変更点は，次の通りである．

紙ベースの応募票の廃止

学生が提出していた応募票は，全てゼミ募集システム上に登録することで，事務が行なっていた応募票のゼミ毎の整理，枚数集計，応募者のリスト作成等などが不要になった（図 1：学生「システムよりゼミに応募する」）．したがって，学生への応募の控えの受け渡しと教員への応募票の受け渡し不要となった．

応募状況の公開と応募先の変更を追加

第一次選考の学生の応募期間終了後に，各ゼミへの応募状況を公開し，一度だけ応募先のゼミを変更できるようにした（図 1：「応募状況発表～第一次募集変更期間」）．これにより，学生が自主的にゼミを変更する機会を与え，極端な特定ゼミへの応募の偏りが分散することを期待している．また，教員は，変更期間後に最終的な応募状況を確認するようにし，同時に学生へメールにて選考案内が送信されるようにした（図 2：「応募カードの受け渡し」）．

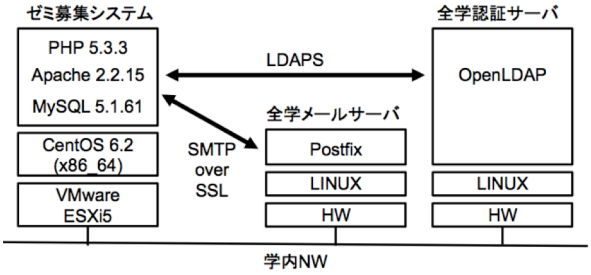

図 4　システム構成図

合格した学生による受講意思確認の追加

教員が合格とした学生の受講意思を確認できるよう，学生は，合格後にゼミの確定を行うようにした（図 2：学生「システムにより合否を確認・確定する」）.

3　ゼミ募集システムの概要

3.1 システムの構成

システムの構成を図 4 に示す. ゼミ募集システムは，LAMP による構成にて，スクラッチで開発した．認証システムには，全学の LDAP サーバを利用しているため，名前やメールアドレス，所属などの基本的な情報は，自動的にユーザ登録情報として設定される. 応募の登録確認, 選考の案内, 合否の通知などは，学内の全学メールサーバによりメールが送信される.

3.2 実装した機能

開発にあたっては，経済学部の教員および事務職員とともに要件定義し，機能を実装した．初回ログイン時には，ウィザード形式のユーザ登録フォームにより，確実に必要最低限の情報が入力される（図 3）．ログインすると，教員，学生，事務により，それぞれ必要なメニューが表示され，ホーム画面には，お知らせ等の情報が表示される．教員がログインした際のホーム画面を図 5 に示す.

教員モード

メニューは,「ホーム」,「ユーザ」,「ゼミ」,「ゼミ募集」,「学部ゼミ」の 5 つで構成される.

- ホーム
  ログイン時に表示される. お知らせ等の情報が適宜，表示される.

図 3　初回ログイン時ユーザ登録画面（学生）

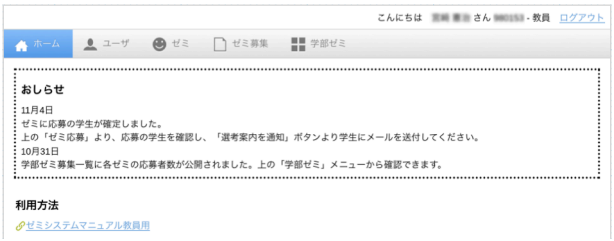

図 5　ホーム画面（教員）

図 6　ゼミ募集画面（教員）

- ユーザ
  メールアドレスや電話番号等のユーザ情報の確認，編集ができる.
- ゼミ
  ゼミ情報を登録する．ゼミ紹介 PDF ファイルやホームページへのリンク等を登録できる.
- ゼミ募集
  ゼミの募集手続を行う. 教員が次に何をすべきかは, 選考のプロセスに合わせて画面上部にアイコン付きで選考の進捗が表示される（図 6）．募集情報の登録や登録した募集情報への学生の応募状況が確認でき，合否などを登録する．また，面接の際に資料とできるよう，学生応募情報は，CSV 形式でダウンロード可能である.

- 学部ゼミ
  学部で募集中のゼミの一覧を表示する．

学生モード

図 7　ゼミ応募画面（学生）

メニューは，「ホーム」，「ユーザ」，「ゼミ応募」，「学部ゼミ」の 4 つで構成される．「ユーザ」メニューは，教員や事務よりも詳細な個人情報（住所，誕生日，出身高校等）の他，部活動やサークル，特技，趣味等を入力できる．「ホーム」，「学部ゼミ」メニューについては，教員モードのものと同等である．

- ゼミ応募
  ゼミの応募手続を行う．学生が次に何をすべきかは，選考のプロセスに合わせて画面上部にアイコン付きで選考の進捗が表示される（図 7）．応募の際には，希望のゼミ選択して，自己 PR の入力が必須である．応募したゼミの合否もこの画面にて表示される．

事務モード

メニューは，「ホーム」，「ユーザ」，「学部ユーザ」，「学部ゼミ」の 4 つで構成される．教員やユーザに変わって，情報の入力や編集，印刷などが行え，主に管理機能を有する．「ホーム」，「ユーザ」，「学部ゼミ」メニューについては，教員モードのものと同等である．

- 学部ユーザ

学部の全登録ユーザ情報を表示することができ，教員や学生からの問合せに等に活用できる．

5　おわりに

本稿では，紙ベースによるゼミ選考プロセスを，独自に開発したゼミ応募システム上で実現し，そのシステムの機能を紹介した．本システムは，他学部でも利用できるよう設計しており，経済学部でも今後展開を考えている．

現在，実際に本システムを利用し，今年度のゼミ募集を行なっているところであり，特に大きなトラブルもなく選考が進んでいる．今回，システム化したことにより，様々なデータが蓄積できた．例えば，第一次選考に今年度初めて応募ゼミの変更期間を設け，応募が集中した特定ゼミから応募が分散すること期待しているが，実際に変更したログデータを利用することで検証が行うことができると考えている．

今後は，データの検証，分析に加え，システムと選考プロセスについてオンラインアンケートを実施し，評価する予定である．また，ゼミへの応募を通じて，学生は，自分の個人情報や特技，資格等に加え，自己 PR を入力する必要があるが，これは，自己の専門性，強みを振り返り，将来について考える良い機会である．この活動自体が自己アピールのためのショーケース・ポートフォリオの作成と相似性があると考える．本学では，オープンソースの e ポートフォリオ・システムである Mahara を活用して，e ポートフォリオによる教育を実践している[2][3]．来年度の選考では，本学で実践している e ポートフォリオシステムと連携し，ゼミの応募時の自己 PR にショーケース・ポートフォリオ提出することを計画中である．

参考文献

[1] 堀江真由美：“演習応募における学生の選択行動の分析”，広島経済大学経済学会　広島経済大学経済研究論集　第 34 巻　第 4 号，pp125-132　(2012).

[2] 宮崎誠，鈴木靖：学習コミュニティとしての e ポートフォリオ・システムの試行，情報処理学会研究報告，Vol.2011-CLE-6　No.8 (2011)．

[3] 宮崎誠，菅原真悟，坂本旬，佐藤一子：“学生のキャリア意識形成を支援する e ポートフォリオの活用”，Mahara オープンフォーラム 2012 講演論文集，pp24-27　(2012).